

会 議 録

会議名	山形市総合教育会議
開催日時	令和3年2月3日（水） 10:30～11:50
開催場所	山形市役所3階 庁議室
出席者	佐藤孝弘市長、荒澤賢雄教育長、 無着道子教育委員、白鳥樹一郎教育委員、中村篤教育委員、 熊坂香織教育委員
（陪席）	折原啓司総務部長、山口範夫商工観光部長
（事務局）	伊藤尚之教育部長、奥山泰子管理課長、田中克学校教育課長 小林勝喜商業高校長、浅井幹太商業高校事務長
報告・協議事項	報告事項 コロナ禍における教育課程実施 協議事項 魅力ある「山形市立商業高等学校」を目指して (1) 教育環境の整備 (2) 教育システム・教育内容の改善 (3) 新しい学校運営システムの導入

会議経過

1. 開 会 （奥山管理課長）

2. 挨拶 佐藤市長・荒澤教育長

3. 報 告 （座長 佐藤市長）

「コロナ禍における教育課程実施」

資料を用い、田中学校教育課長より説明。

（要 旨）

市立小中学校においては、休校措置があったものの、学習進度に遅れは無く、令和2年度の学習課程を修了できる見込みである。運動会は全ての小中学校で、学習発表会、修学旅行については可能な限り実施した。

今後も、体調確認やマスク着用等の感染防止対策を講じながら実施する。

卒業式・入学式については、参加人数の限定や内容の簡素化による時間短縮等を行いながら実施する。

< 質疑応答 無し >

【佐藤市長】

卒業式・入学式においては、昨年もコロナ禍の状況にて実施しているため、同様にしっかり対応してほしい。

4. 協 議 (座長 佐藤市長)

「魅力ある『山形市立商業高等学校』を目指して」

資料及び ppt. を用い、小林商業高等学校長より説明。

(要 旨)

現在改築工事が進められており、令和4年度に供用開始となる、商業高等学校新校舎のハード面について説明。映像による工事進捗状況も紹介された。

また、ソフト面においても、新校舎供用開始と併せ、令和4年度より、学科の改編、単位制の導入、教育課程改訂を行う。

学科については、現在の学習内容をより高度化させるため、情報科(1クラス)・総合ビジネス科(4クラス)・経済科(2クラス)の編成とする。

単位制については全科で導入し、生徒が主体的に、自身の興味・関心、進路希望に応じた科目を選択して履修することが可能となり、また、専門的な教員の増員配置により、きめ細やかな教育の実現を図る。

地域が必要とする人材の育成という社会的責任を果たすため、学校運営に地域が関わる、コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の導入も予定している。

<意見交換>

【佐藤市長】

ただ今の説明を受けて、皆様からそれぞれのご意見を伺いたい。

今回は、「より魅力的な山商を目指すためには何が必要か」「山商の社会的責任は何か、特に地域の視点からは何が求められるか」という、2つの視点を中心にご意見をいただきたい。

まず私から意見を述べさせていただきます。

山商の学科改編等については、大変楽しみにしている。

山商は、地域の経済を支える人材を育てるという趣旨で設立され、実際にその役割を担ってきた。その役割を残しながら、より多様な方面に活躍の場が広がっていくのではないかと考えている。

山商の魅力向上に最も必要なことは、授業・活動内容の充実である。

商業高校というと、簿記・会計を習うというイメージであるが、これからは、単純に知識を学ぶだけでなく、知識を活用して何が出来るかを考える人材の育成が必要となってくるのではないかと。

例えば、AIは今後5～10年のうちに日本中、世界中でカギを握る技術になるが、AIの発達・普及により消滅してしまうかもしれない職業の筆頭格が会計士と言われている。これまでの業務内容の多くがAIに取って代わられるものであるため、業界では、業態の中心をコンサルティングにシフトし、職業に更なる付加価値を加えようと対応している。

今回、山商にAI部を設置したが、このような変化があることを踏まえ、地元経済界と連携し、業界がどのような人材を求めているかを的確に把握し、対応を行いながら活動を進めることが重要である。

また、山商の特徴には、大学進学率が伸びているが、進学一辺倒ではなく、地元就職率が多いことや、スポーツ・運動部活動も好成績を収めているなど、活動の多様性が挙げられる。色々な思考をもった生徒がいて、成長できることがセールスポイントとなっているため、これを上手くPRすることにより、一層良い人材が集まるのではないかと。ひいては、地元を担う人材が多く集まることにつながると思われる。

AI活用のひとつの案だが、人材の中央流出の解決策にもなるのではないかと。

全国的にも長年の課題となっている、女性の地方での活躍の場が少なく、就職時に中央へ流出する傾向について、リモートによる会議などを推進することにより、仕事に距離を必要としなくなり、地方に在住していても中央との連携が可能となる。人材の地元定着という観点から、そのような技術も山商の授業で身に付けてほしい。

【無着委員】

生まれ変わる山商の、校舎等の環境整備、学科改編等の教育内容が理解でき、実際の映像を含めて、新たな学校づくりが始まっていることを実感した。

丁寧に説明いただいたことに感謝したい。

まず「より魅力的な山商を目指すには何が必要か」ということについて話したい。

山商には「輪誠」という揺るぎない教えのもと、商業教育という特色を生かした授業、それにとどまらず運動部や産業調査部が様々な活躍をしているなど、生徒は充実した学校生活を日々送っており、だからこそ入学希望者も多く、今でも十分魅力的な学校であると思っている。

そのような中での改編においては、単位制の導入について期待したい。

生徒が自分の学びたいこと、自分の興味関心を伸ばすこと、自ら選択して学ぶことが出来ることは大事であり、山形市の小中学校も目指している、主体的な学びという趣旨にふさわしい。

導入により、生徒自身も主体的な学びにさらに意欲的に向き合う可能性が広がり、将来の生き方や職業につながるのではないか。

一人ひとりを大事にするという学びの場であること、また、夢と希望のある人づくり・学校づくり・地域づくりをさらに進めていくことで、より魅力ある素晴らしい学校になると思う。

もうひとつの視点である「山商の社会的責任」についてであるが、山商は、今も地域の産業界に活力を与える学校づくりをしているが、コミュニティ・スクールの導入などにより、様々な地元の意見をいただき、互いに理解しながら、共に支えあい、更に良い連携・協働関係を築くことが出来ればと考える。

地域とともに歩む、地域に愛される学校になってほしい。

提案だが、市内の小中学校で進めているICT機器の活用について、山商の生徒が使い方や活用方法を教えるなど、児童生徒のお手本になるようなことに生徒の力を発揮できないだろうか。小中学生に目標とされる高校生になることも、大切な地域貢献のひとつではないかと思う。お互いの学び・成長のためにも大切なことであると考えている。

【白鳥委員】

「より魅力的な山商を目指すために必要となる」ことについて、これから訪れる社会の変化を踏まえて考えてみた。

一つ目の変化は、人口減少・高齢化により、生産年齢人口が減少し、より若者の力が求められる時代が来ること。

二つ目の変化は、今後はICT機器への依存度がさらに高くなり、テレワークがより一層増えること。

三つ目の変化は、企業の地方への分散が進んでいるが、インターネット社会を含めた国際化も一層進み、国際言語である英語を使ったコミュニケーションがより必要になること。

四つ目の変化は、現在は地球温暖化などが課題とされているが、今後はさらに解決すべき課題が増えていくこと。

このような社会に対応できる人材を育成していくことが大切になる。

山商について考えると、伝統的に“プロフェッショナルな商業人”の育成が根本にあるが、これを突き詰めていくことが重要であり、生徒の進路の幅も広がる。そのためには、説明にもあった「3言語」をしっかりと学ぶことが必要である。会計言語においては、簿記などのこれまでの実績を発展させること。

情報言語においては、大学や企業と連携し、情報処理の最新技術を教えること。
国際言語においては、実際のビジネス場面で生かすことの出来るビジネス英語教育を充実させること。これには教員の指導方法の工夫が必要とされるが、山商の魅力化に繋がるものとなる。

もうひとつの「社会的責任」については、二つのことを挙げたい。

一つ目は、当たり前のことになるが、地域社会で活躍できるプロフェッショナルな商業人を育成することではないか。山商には卒業生が地域社会で力になっているという実績があり、今後もそれを積み重ねていくことが重要である。

二つ目は、地域との繋がりを密にしていくということ。これまでの産業調査部の活躍や、授業における地元企業とのコラボ企画を行っているが、さらに発展させ、地域が山商を知る、山商も地域を知るといふ、地元との循環を構築することが大切である。

【中村委員】

1週間ほど前、ある会合で、山商OBである3名の経営者と同席した。年齢は80代だが、第一線で現役として活躍しており、また、誇らしげに母校の事を話していた。経営者としての活躍とともに、卒業してから何十年経っても語り合える姿を見て、山商は魅力的な学校であることを実感した。

令和4年度からの、ハード・ソフトの両面において、新しい時代の山商づくり・生徒づくりを行うことに賛同し、期待するものである。

まず、より魅力的な山商に必要となるものについては、次のように考える。

入口となる、入学志願する段階で、将来的に山商を志願することになる小中学生からの高評価、今風に言うところ“いいね”をたくさんもらうこと。そして、出口となる卒業生を受け入れる地元の産業界、地域社会から高評価を得ることが重要ではないか。

そのために必要とされるのは、奥ゆかしい山形県人が最も苦手なことであるが、外への情報発信であり、新しい山商をどうやってPRしていくかである。

例えば、山商への興味関心を高めるため、体験入学を開催する、中学生向けにPRするHPを生徒が自ら作成する、小中学校への出前授業を行う、活躍している部活動がスポーツ教室を開催するなど、小中高の連携をより強化していくことが有効ではないか。また、産調ガールズが実践しているような、生徒の知識・若い発想を発信するため、市・OB企業などと協力して、地域課題の解決に生かしていることをもっとPRしてはどうか。

あらゆる媒体を通じて、広く市民に生徒の活躍を伝えることが出来るかが重要である。

「社会的責任」については、山商には、設立時に明治時代の先人がつくった役

割、スクールポリシーである、地域を支える人材の育成という歴史があり、それがこれからも変わらない社会的責任なのではないかと考える。

最後に、このコロナの状況下、暗いニュースばかりの現在において、新生山商については明るい話題であり、市民の一人として非常に楽しみにしている。

【熊坂委員】

今回の説明を受けて、新しい山商に期待が膨らんでいるところである。

より魅力的な山商となるために必要とされることだが、まずは単位制の導入に期待したい。

生徒の希望する進路に沿った授業が選択できることや、生徒自分自身で将来を切り拓く、生徒の個性を伸ばすためにも、学習の選択枠を拡大するこの制度は、魅力的であると感じる。

一方で、私自身もまだ単位制を良く理解していないところがあり、同じように考えている保護者や市民も多いのではないかと感じる。

例えば、体調不良や不登校で登校できなくなった際のフォロー体制について、オンライン授業のみで大丈夫なのか、進級は1年毎ではなく3年生までは自動で進級するのか、途中で進路変更を考えた場合にはどう対応していくのかなど、ちょっとしたものでも、このような心配や疑問について、丁寧に説明し、不安を取り除いていただきたい。

カリキュラムについては、授業の幅が広く、多様性があることに驚いた。

入学時に将来を決めないと3年時の授業選択に困るのではないかと、また、スケジュールがタイトなのではないかという印象もあるが、県内初のラーニングコモンズを継続的に上手く使い、生徒が集まって主体的に課題を見つけて学べるよう、学習支援のサポート体制の環境整備を充実させてほしい。

一方で、生徒の学びのためとは言え、授業などの環境整備において、教員の過重な負担にならないようにと願う。

地域社会の貢献にはコミュニティ・スクールの導入は非常に良いものと感じた。

学校の現状・課題を地元で理解してもらい、山商の魅力化につながるような、地域からの良い提案を多くもらえるようになると思う。

地域の内外と出会いが増え、より特色ある発想が生まれるためには、コーディネーターの役割が重要ではないか。

先日、ニュースで“高校魅力化コーディネーター”の活動を目にした。

その方は、北海道のある町の職員であり、まちの活性化のために、SNSで小中学生に高校の活動について効果的に情報を発信しており、高校への興味のきっかけづくりとなっていた。

また、産調ガールズの活躍を YouTube で拝見したが、販売活動や駅からのハ

イキングなど、地域の活性化のために活躍している姿はすごい。

山形の素晴らしさを、若い子が、視点を変えて、自由で、大胆で、意外で、新しい発想を発信することで元気をもらえる。

SNSは、教育においては問題視される傾向にもあるが、効果的に発信することにより、身近過ぎて気づきにくいこと、日常の大切さに改めて気づいた人も多いはずである。

教育の変化でオンライン化が進み、直接の繋がりは少なくなったが、オンラインでも人と人とはつながれることが分かり、むしろこれまで以上に繋がりが重要になる時代になると思う。

最後に、生まれ変わる山商の、ハード・ソフトの両面において恵まれた環境の中で、生徒が本当の知識を身に付けて、高いレベルの進学・就職とともに、自分が決めた道を高い目的意識を持って進み、地元の山形で活躍することを期待したい。

【荒澤教育長】

昨年8月、佐藤市長から、「シン・ニホン」「純粋機械化経済」という2冊の本を紹介いただき、読ませていただいた。

いずれも、日々進化するAI・ビッグデータ・IOTなどの発展は、産業革命などと同じ規模の大変革をもたらすものとして、あらゆる分野の全ての日本人に「今、何にチャレンジし、どのような社会を目指すのか」を問いかけているような本に感じた。

経済界だけでなく、教育の分野だからこそ、これからの社会の特徴を受け入れて、Society 5.0の到来に備える必要があると考えさせられた。

山商においては、これからの社会を見据えて意欲的な教育を計画しており、今後の教育活動が楽しみである。

本日の説明には、21世紀に役立つ「3言語」が必要とされるとあったが、全くその通りであると考え。白鳥委員が指摘したように、特に進学と就職という進路の違いに限らず、情報のスキルや考え方、今後の方向性についての学びが大切である。そこで、単位制を有効活用して、すべての生徒が比較的高いレベルで情報学習を学んでほしい。そのことが、生徒・保護者、ひいては市民にとっての山商の魅力をさらに高めることに大きく貢献する。

山商の魅力アップに必要なことについては、中村委員の話にあった生徒によるホームページ作成、熊坂委員からのSNSの活用など、我々が気付かない、大変良いアイデアをいただいた。また、無着委員から話があった夢や希望が持てる高校になること、熊坂委員から話があった生徒の思いに寄り添う高校になることは大変魅力的である。ご意見に感謝したい。

山商に求められる社会的責任についてであるが、地元である山形市への貢献と

いう観点から話をしたい。

山商は卒業生の地元定着率も高く、また、産調ガールズのお宝広報大使の活動など、新学習指導要領に掲げる「社会に開かれた教育課程」が目指す地元貢献は、既にある程度実践していると考えられる。

山商は山形市の経済界を支える目的で設立したため、地元貢献は自然のことという認識であり、社会的責任をある程度果たしてきた歴史もある。

これからまずやるべきことは、改めてこれまでの教育活動や考え方に価値付け・意味付けし、整理することが大事になるのではないか。

20～30年前にやっていたことに、非常に大きな価値を見出せるかもしれない。山商だからこそ、過去に行ってきたことを振り返って、価値付け・意味付けを行うことが出来るのではないか。

さらに社会的責任・地域貢献を強化するとしたら、既に小林校長の視野に入っているコミュニティ・スクールも大きな成果をもたらすと考える。地域の人々、有識者が構成する運営協議会の中で、山商の社会的責任・地域貢献を議論し、そこで新たな魅力が生まれる契機になるものと期待している。

【佐藤市長】

全員から意見を伺ったが、他に意見があれば伺いたい。

【荒澤教育長】

文科省による“新しい時代の高校教育のあり方に関するワーキンググループ”のまとめを読んだが、地元との連携も当然大事だが、加えて高等教育機関との協働・連携についても必要とされるのではないかということを感じた。

現在、山商では大原学園、会津大学短期大学部と連携しているが、市内にある、山形大学・東北文教大学・東北芸術工科大学と協働し、高大連携のひとつのモデルにチャレンジしてはどうか。山商の魅力化、地域貢献にも繋がるものとする。

【佐藤市長】

皆様のご意見を伺い、次の点について考えた。

まず単位制についてだが、現在は、何を学ぶかを選ばなければならない時代であり、生徒自身がどういう人生を送りたいかを考えるきっかけになる制度と思っている。選択のためには、経済界がどのような人材を求めているかということが参考になるので、学校と経済界、お互いの情報交換を密にして進めてほしい。

また、山商の魅力の情報発信も大事であると感じた。

PRをしっかりと行い、山商を進学先として選んでもらえるように、併せて、卒業後に何があるのか、具体的なものを発信し、より市民に認知してもらえよう、市民から支持してもらえようようにしていきたい。

【佐藤市長】

本日は皆様から貴重なご意見をいただきました。

ご意見をしっかりと受け止め、より魅力的な山商となるよう、今後の取り組みを進めていきたい。

5. その他

＜奥山管理課長＞

来年度の総合教育会議については、今年度同様に2回の会議を開催することとし、具体的な開催時期・テーマについては、今後協議して決定していきたい。

6. 閉 会 （奥山管理課長）